

中國分省新圖〔第四版〕

のことなど

——新支那地圖帖の刊行を望む——

日 比 野 丈 夫

本書は新刊といふわけではない。その發行も既に今から三年前、民國二十八年のことなのである。それにも拘らず、敢てこれを取り上げるのは、むしろかゝる地圖帖が我が國に於いても新刊せられんことを待望するからである。

一體、我が國では以前から地圖といふものは、一部の人々を除けば頗る蔑視されがちで、殊に外國地圖に對する一般の認識は甚だ低いものであつた。地圖といへば、中等學校の教科書か、新聞雜誌の附録ぐらゐのもので進んでよい地圖を探し求めたいといふ氣持がないどころか、地圖は買はなくともよいもの、その中に新聞社あたりから呉れるもの、といったのが一般の氣

持であつたらう。かゝる事情は我が國でよい地圖が作られない原因の一つなのである。かりに作つたとしても、これでは賣れよう道理がない。實際、地圖の出版には目に見えない勞苦が多く、意外な費用を要するのである。

勿論、支那事變、大東亞戰爭とうちつゞく時局の激しい變轉に、人々のかゝる認識も大いに改まつた。支那大陸の地名はいふまでもなく、今や南洋の果ての小島の一つ／＼まで記憶してゐなければ、日常の談話にもこと缺くのである。

今までは、北京・天津・南京・上海ぐらゐがぼんやりとししかわかつてゐなかつたやうな人々の口から、實に多數の地名がいき／＼と語られてゐる。従つて、かういつた已むに已まれぬ要求から、夥しい各種の東亞圖が作り出された。支那事變の頃には専ら支那圖が、大東亞戰爭になると大東亞共榮圈圖といつたものが、次から次へと作られて市場に氾濫する。殊に支那地圖の如きは、同じやうなものが幾十種作られたことであらう。しかも權威ある調査に基く正確な圖といふものは甚だ少いのである。我が陸軍の陸地測量部の業績を

除けば、たゞ僅かに滿鐵調査部の「北支那地圖」、「中南支那地圖」、或は東方文化研究所の「東亞大陸諸國疆域圖」の如きが擧げられるに過ぎない。

由來、地圖の製作過程やその依據せる資料等に就いては、殆んどこれを發表したものがない。しかし編纂・地圖に於いてはこれこそ最も重要なことなのである。

この點、東方文化研究所の圖は、その圖の發行と前後して、展開圖法の解説、製作過程、重要資料等をも發表してゐるのであつて、學術的良心に富んだものとして、劃期的な存在といへるのである。この圖は該研究所が編纂開始以來、十箇年に近い日子を費してなつたものであるが、その編纂は略々既に支那事變勃發以前に了しめてゐるのであつて、事變以後に於ける新たな情勢、新調査の結果等が殆んど考慮に入れられてゐない。従つて、この圖は事變以前に於ける支那圖の最高峰として頗る意義のあるものであるが、今日では幾多の改訂すべき箇所を發見してゐるのである。

しかるに、地圖帖^{アトララス}に至つては、これ等に匹敵すべきものゝないことは勿論、教科書的なものでさへ支那圖となると實に寥々たるものである。その中、松田壽男

氏の「新支那滿蒙回藏最詳地圖」(ボケット判)の如きは、簡單ながら最も要領を得たものとして推奨に値しよう。かゝる現狀にも拘らず、今日なほ官公私何れの研究所・調査所に於いても、學術的な調査に基く完全なる新支那地圖帖の編纂されてゐることを聞かない。いな、かゝる風評をさへ耳にしないといふことは、誠に悲しむべきことであつて、むしろ奇異の感なきを得ないのである。

二

さて、私がこの「中國分省新圖」の第四版を始めて見たのは、一昨年の春、上海の四馬路に於いてであつた。さうして、一見これが以前の第三版に比して體裁も立派で内容も豊富なのを知つて、これが敗戦下に於ける支那の仕事なのかと、一面不思議にたへないと共に、一面感歎の聲を放たずにはゐられなかつた。よく見ると、發行者のところにも申報館の名と並んで美商哥倫比亞有限公司^{コロンビア}とあり、こんなことは他にいくらでもある例ながら、米英の露骨な敵性ぶりや租界の將來などに就いて、いろんなことを考へさせられたのであつた。私が北京に歸つてから、この本は北京飯店のフ

レンチライブラリーなどにもぼつ／＼やつて來たし、内地には直接上海からどし／＼送られて相當の需要もあつたやうである。

この地圖帖の初版は、民國二十二年上海の申報館から出版された。これはその翌年に出版されるべき「中華民國新地圖」の簡易版ともいふべく、専ら中等學校の教科用として編纂されたものである。元來申報館ではその數年前より六十週年記念事業として、この「中華民國新地圖」の編纂を計畫し、民國二十三年に到つて完成出版を遂げたのであつた。これは最近に於ける支那の地圖學界の劃期的にして最高の業績として注意すべく、また實に世界的な意義をも有するのである。丁文江の計畫、翁文灝の指導の下に、曾世英が専らその工作に任じ、編纂に當つては、地質調査所が十數年に亘つて蓄積した數千點の内外資料を驅使したと稱してゐる。しかし、その中心資料となつたのは、民國の參謀本部陸地測量總局の手になる各省の地形詳圖であつた。

支那の測量事業は清末から始まり、民國に承け繼がれて次第に整備し、已に相當の業績を擧げてゐるのである。

ある。殊に民國十八年のことであるが、第三回二中全會の決議によつて、その年全國測量會議が召集され、全國測量十年計畫が樹立されたやうなこともあつた。

勿論、この計畫はそのまゝに實行されたわけではなく現在五萬分一、十萬分一等の詳密圖が完成を告げてゐるのは未だ全國の何分の一かに過ぎず、且つ全國に亘つた統一的な經緯度測量の如きも充分には行はれてゐないやうな現狀である。しかし乍ら、從來の支那の地圖學界はかうした新材料には殆んど考慮を拂ふことなく、舊態依然たる歩みを續けてゐた。勿論支那總圖や地圖帖は幾種も作られはしたけれども、それはたゞ康熙以來の内府圖を、光緒二十年前後にかけて頻りに作られた會典圖を以つて補つた程度のものに過ぎなかつた。申報館の圖帖が劃期的と稱されるのは、實にこの點にあるのである。更にいへば、この申報館の圖の出版こそは、中華民國の發展が或一段階に達したことを示す金字塔であつたと評することも出来るであらう。

この「中華民國新地圖」は、民國二十三年に初版を出したまゝであるが、一方「中國分省新圖」は二十三年に第二版を二十五年に第三版を出した。さうして

年々目まぐるしく變化して行く行政區域や行政機關の所在、或は次第に明確となつて来る邊陲の地形、さういつたものを克明に補充して改訂を加へてゐるのである。従つて支那事變以前に於いては、「中國分省新圖」第三版は斯界の尖端を行くものとして最も信用し得るものであつた。しかも敗戦に喘ぎつゝも、なほ且つその第四版を出したといふことに就いては、彼等當事者の熱意に動かされざるを得ないのである。かゝることは平和時に於いても容易になし得ることではない。我が國に於いても、從來かゝる權威ある地圖が、かくも活潑に改訂されて行つたといふ例が果してあつたらうか。

改めていふまでもなく、地圖は時と共に變化して行くものであつて、従つて或時期を標準として作られた地圖は、それが出来上つた時に於いて既に歴史地圖となつてゐるのである。地圖はそれが出来上つた瞬間からまた新たな改訂の努力が続けられなければならぬ。これなき地圖は恰かも剝製の標本の如く、生氣のないものであつて、改訂版を出し得る希望があつてこそ、その生きた價值が認められるのである。

さて、この第四版を第三版と比べると、後者が兩面印刷になつてゐて、二頁大に亘る圖に於いては接續が悪く閱覽に不便な點も少くないが、前者は第一版・第二版と同じく、全部片面印刷として、二頁大の圖は一面に印刷されてゐる。従つて、第四版の方が體裁も遙かに立派でまた便利である。内容に於いては、初めに曾世英の重慶で認めた序文があり、歐亞地形圖と西康圖とを加へ、索引を十頁増してゐる。少しく個々の内容に就いて氣の附いた相違を述べれば次のやうな點である。

一、先づ行政區劃に就いては、西康省が大きくなつてゐることで、四川省西部の十餘縣が西康省内に入つた。陝西省北端部、山西省廣靈縣(現屬晉北)附近に於いても境界線にやゝ變更が認められる。

一、次に個々の地名に就いては、湘北省松滋縣、廣東省中山縣等の縣治の移轉があり、その他地名の變更増補は全般的に甚だ多い。殊に山西省の如きはその程度が著しく、地形に於いても多數の河道が増加されてゐる。これは五萬分一山西省圖が新たに利用された爲めであらう。滇緬國境附近には特に地名の増

補が多い。

一、鐵道を大いに増補し、浙贛、京贛、同蒲等の各線を全通させ、蘇嘉線或は北京承德間の鐵道の如きも新たに加へてゐる。但し後者は現在の承通線とは全く異つてゐる。また滿洲はもとより我が朝鮮・臺灣などの鐵道をも増補してゐる。それから一般に未成線が多數書き加へられてゐることが注意され、それは陝西・四川等の各省から西南一帯に亘つて多い。一、従つて地名の一般に増してゐることはいふまでもなく、第三版に比してどれ程多くなつてゐるかは明らかでないが、とに角、初版の地名約六千に比して第四版に於いては一萬餘に増加してゐる。もとよりこれ等の増加地名も改版の度毎に索引には補充されてゐるのである。

例言には、本圖第四版の集稿に際しては、正に交通阻塞し遷徙常なく、第三版の時の如く廣徵博引をしたと思つても爲し得ない狀態であつたと述べてゐる。しかし、この兵馬倥傯の際に於いてもなほこれだけの事業をなし遂げてゐる、支那の學者に對して私は心から尊敬したいのである。

三

それはとも角、これは明らかな敵性出版物なのである。元來その初版の當時から、嚴然として存在する我が盟邦滿洲國の如きはこの圖では全く抹殺され了つてゐる。さうして何等憚るところなく中華民國の一部として描かれてゐるのである。これは支那の出版物に於いてはみなさうなのであるが、こんな圖がついこの間まで公然と輸入されて我が國で行はれてゐた。我が國一般人の地圖に對する無關心さ故である。支那事變の始まつた當時、人々は次々に報道される新しい地名の檢出に随分苦勞し、焦慮したものである。「中華民國新地圖」がどれだけ我が國に渡つて來てゐたかは知らないが、新聞社であらうが學校であらうが先づあれに頼るより外はなかつた。いまだにこの狀態は殆んど改善されてゐない。「中華民國新地圖」や「中國分省新圖」はやはり金科玉條なのである。一時北支では分省新圖第三版の實に拙劣な模造版が現はれて、それが我が國にも多數もたらされた程である。尤も我が參謀本部から五十萬分一の支那圖が昭和十三年に發行されてはゐるが、それはまだ完結されたものではなく、一般

の普及度も非常に少いのである。

しかるに、大東亞戰爭の勃發と同時に、上海の租界に氾濫してゐた一切の敵性出版物は我が軍の手によつて沒收され、殊に地圖類の如きは一も市場に姿を現はさなくなつたといふ。これは當然のことであつて、むしろその措置の遲きを感じるのである。

それではしかし、これにとつて代るべき地圖は何處にあるだらうか。よしなくても新たに作るべく何處かでその計畫がなされてゐるだらうか。これは我が國の學者にとつてもまた爲政者にとつても重大な關心事ではなければならぬ。今や我が國の地圖學界は、支那の過去三十年に亘る膨大なる測量事業の成果を充分に利用し、更に我が陸軍の陸地測量部の不斷の努力による業績或は支那事變以後に於ける航空測量の結果等に依頼し得る最も有利な立場にある。實際、支那を指導し支那問題を處理するといふ上に於いて、世界を指導すべき地位にある我が國にとつては、先づ模範的な支那圖を編纂することが急務であると信ずる。清朝末期以來の支那内地の測量事業の結果は、「中華民國新地圖」として一應整理が行はれた。今やこれを根本的に改良

し、新資料を利用して新しい秩序に基く新支那圖を作成することは我々の任務でなければならぬ。しかるに未だかゝる計畫さへ行はれてゐることを聞かないのは以ての外であり、或意味に於いては恥辱とさへいひ得るであらう。

實際、文化事業といつたものも、かゝる基礎的なものから先づ始められるべきではないか。地圖といふものゝ性質が、あらゆる方面に如何に重要な影響を及ぼすものかといふことを考へれば、これは一刻も忽せにすべきことではない。單なる枝葉末節的な文化事業を云々するよりは、かゝる基礎的な事業にしつかりと腰を入れることこそ現下の急務ではないかと思ふ。尤もかゝる事業は一朝一夕に出来ることではない。如何に短く見積つても六年や七年は要するであらう。しかし戰爭には長期戦を口にしながら、かういふ方面ではすぐに結果の現はれるやうに焦るのが一般の傾向である。これは我が國の文化事業が振はない理由である。支那の現地について見れば最もその感が深い。

新支那地圖帖の編纂といふことは、實に國家的の重大な事業であつて、國家の力によつて有力な機關を組

織してかゝらねばならない。さうして、このことは我が國に於てのみ始めて出来る、いな、なさねばならないといふことを重ねて強調する。

近時、日本統制地圖會社なるものが設立され、從來の亂雜なる地圖の製作發行に一應の統制が加へられた。更に最近の報道によれば、優秀な地圖の製作發行の爲め、地圖の研究製作指導を目的とする社團法人地圖研究所が創設されたといふことである。し

かし、未だこれ等の機關に於いても優秀なる新支那地圖帖編纂の具體的な計畫あることを聞かない。これは當然、かゝる研究所の事業として第一に行はれるべきものであり、またこれが爲し得ないやうではその存在の意義もないのである。やがて近き將來に於いてかゝる計畫が當然發表されることを期待し、それによつて年來の渴望が癒されんことを祈ると共に、一言苦言を呈するものである。